



## その4 財務部

# 管内経済情勢報告

平成十三年十月、財務課では管内経済情勢を次のとおり取りまとめました。

### 概況

最近の管内経済情勢をみると、個人消費は、先行きに対する不透明感がみられるものの、現状底固く推移している。住宅建設、公共事業は前年を上回っているものの、盛り上がりにかけている。また、十三年度の設備投資は前年度を下回る計画となっている。観光も現状高水準を維持しているものの、先行きに対する不透明感がみられる。

こうした中、企業活動をみると、生産は総じて低調な動きとなっている。十三年度上期の企業収益は増益見込みとなっているものの、企業の景況感は後退している。

なお、雇用情勢は依然として厳しい状況となっている。

このように、管内経済は、現状底固さはあるものの、盛り上がりには欠けており、先行きに対する不透明感がみられる。

**個人消費**は主要スーパーがこ

る持ち直しの動きがみられ、百貨店は前年並となっているものの、先行きに対する不透明感がみられる。コンビニエンスストアは堅調に推移している。

耐久消費財では、家電製品は猛暑効果でエアコンが好調なものの、OA機器や白モノ家電などが前年を下回っている。新車及び中古車販売は堅調な動きとなっている。

このように、個人消費は、先行きに対する不透明感がみられるものの、現状底固く推移している。

**観光**は、観光入込客が五ヶ月連続で増加するなど、現状高水準を維持しているものの、米国のテロ事件の影響などから先行きに対する不透明感がみられる。

主要ホテルの客室稼働率は前年を上回っており、客室単価は前年を下回っている。客単価は前年並みとなっている。

観光関連施設の入場者数は、高水準である入込客や、引き続きグループの世界遺産登録の効果に支えられ、前年を上回っている。

**住宅建設**は、新設住宅着工戸数は、貸家が前年を上回っていることから、全体でも前年を上回っているものの、新設住宅着工床面積は、前年並みとなっており、盛り上がりには欠けている。

資金別の着工戸数では、公的資金が前年を下回っているものの、民間資金が前年を大幅に上回っている。

**設備投資**は、十三年度は全産業で前年度を下回る計画となっている。

**公共事業**は、公共工事前払保証請負額でみると、県市町村等で前年を上回っているものの、盛り上がりには欠けている。

**生産活動**は、県外向けのアルミ型材が好調な動きをみせているものの、セメント、生コシ、棒鋼は前年を下回っている。

また、食料品では、発泡酒、県外向けの泡盛、パン、めん類が好調な動きとなっているものの、ビール、食肉加工品が低調に推移している。

このように、生産活動は二部において好調な動きもみられるものの、総じて低調な動きとなっている。

**企業収益**（石油、電気ガスを除く）は、十三年度上期は、前年同期に比べ、製造業で大幅な減益とみているものの、ウエイトの高い非製造業で増益とみていることから、全産業では増益見込みとなっている。

十三年度下期は、製造業、非製造業とも増益とみていることから、全産業では増益見通しとなっている。

十三年度通期は、製造業で減益とみているものの、非製造業で増益とみていることから、全産業で増益見通しとなっている。

### 企業の景況感

は、現状（十三年七月九月期）では、製造業で下降・超幅が拡大しているほか、非製造業で「下降」超に転じていることから、全産業では「下降」超幅が拡大している。

表-1 個人消費...先行きに対する不透明感がみられるものの、現状底固く推移している

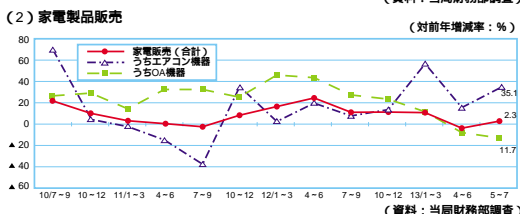
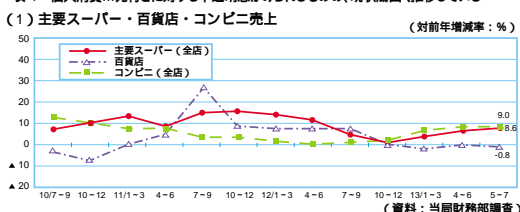
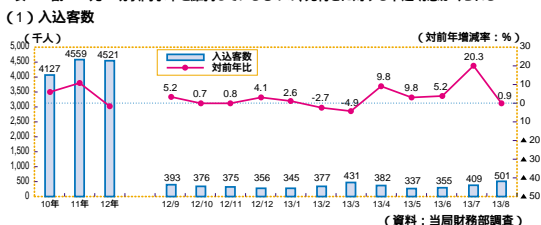


表-2 観光...現状高水準を維持しているものの、先行きに対する不透明感がみられる



なお、先行きは、「上昇」超に転じる見通しとなっている。

**企業倒産**は、件数は前年並となっているものの、負債金額は大型倒産の影響もあって前年を大幅に上回っている。

**雇用情勢**は、完全失業率が依然として高水準で推移しており、有効求人倍率も低水準で推移している。県外からの受入人数もこのところ前年を下回っている。雇用保険受給者実人員は、このところ増加を続けている。このように、雇用情勢は依然として厳しい状況となっている。

**消費者物価**は、全体では弱含みとなっている。

**金融面**は、設備資金、運転資金とも盛り上がりは欠けていることから、全体では前年を下回っている。

**農産品**は、野菜果実の出荷量出荷額でみると、県外向けの「刀わりやオクラ」県内向けの「ヘチマ」が好調な動きをみせているものの、全体では低調な動きとなっている。